

京都府私立中学高等学校【情報科】研究会

2011 年度 活動記録集

2012 年 3 月

0. 目次

0. 目次	1
1. はじめに	2
2. 2011年度 事業活動概要	3
3. 2011年度 総会・研究会の報告（記録と資料）	4
（1） 通常総会	4
（2） 夏期研究会	7
（3） 第10回京都府私立中学高等学校教育研究大会情報科分科会（秋期研究会）	16
（4） 冬期研究会	28
4. 京都府私立中学高等学校一覧（情報科研究会会員校）	32
5. 京都府私立中学高等学校情報科研究会常任委員会委員および役割	34
6. 2011年度情報科研究会予算と決算	35
（1） 事業計画と収支計画（予算）	35
（2） 2011年度決算報告	36
（3） 2011年度 情報科研究会 出納帳	37
（4） 事業実績決算額内訳一覧	38
7. 2012年度情報科研究会事業計画（予算）	39
8. 京都府私立中学高等学校研究会規約	40

1. はじめに

京都府私立中学高等学校情報科研究会委員長 野口 正則

この情報科研究会は京都府私立中学高等学校連合会の23番目の研究会として2009年度より正式に活動を開始しました。その前年の2008年度は、常任委員の方々を中心に連合会との交渉などの準備をしていただきました。特に初代の委員長を引き受けていただいた立命館中学高等学校の文田先生には多大なご苦勞をお願いしたと思います。

3年目の2011年度は「プレゼンテーション」をテーマに研修会を組み立ててきました。

春の総会では同志社国際中学高等学校のコミュニケーションセンターを見学させていただきました。10年以上も前にこのような先進的な施設を作られ、いまだ他校が追いつけていないのには驚きました。

夏の研修会は大谷中学高等学校をお借りして小学校・中学校における情報教育の現状を現場の先生方にお話していただきました。京都教育大学副学長の安東先生にはお忙しい中「中学校段階における情報教育」を技術科のカリキュラムをふまえて講演していただきました。

秋の「教育研究大会」の分科会では龍谷大学社会学部の東田先生とそのゼミ生の方々にプレゼンテーションの指導とその実演をしていただきました。高校生と大学生との差を見せつけられた思いでした。

冬の研修会では龍谷大学附属平安高等学校でプレゼンテーションの公開授業を行いました。授業は日程の関係もあって最後の発表の様子を見せていただきました。公開授業後の検討会では発表に至るまでの指導について活発な議論がなされました。

プレゼンテーションは情報科の教員があまり得意としない分野ですが、学校に持ち帰って活用できる部分も多かったのではないかと思います。

最後に、私事になりますがこの3月をもって退職することになりました。それにともなって研究委員長の職も辞さなければなりません。2代目の私は文田先生の後をただ継承するだけことしかできませんでした。企業では3代目はその存亡を決めるとよく言われます。3代目の委員長にはますますこの会を盛り上げていただきたいと念じております。この間の常任委員の先生方、会の運営に関わっていただいた方々のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

2. 2011年度 事業活動概要

1) 研究会活動概要

	研修会の名称	実施日	場所	参加	研修内容・講師等
1	通常総会	5/12(木)	同志社国際中高	20名	コミュニケーションセンター見学 事業計画・収支計画の確認 常任委員の追加募集 各校の授業概要について情報交換
2	夏期研究会	7/ 4(月)	大谷中高	36名	テーマ「情報教育における中高段階での役割」 小中高大の現状報告 小：京都市立紫野小 石原先生 中：京都橘中高 畑先生 高：京都教育大 安東先生
3	私立中高教育研究大会 の情報科分科会 (秋期研究会)	10/10(月)	同志社中高	23名	テーマ「プレゼンの意味、よいプレゼンのために必要なものを考える」 講師：龍谷大学社会学部 東田先生とゼミ生
4	冬期研究会	1/31(火)	龍谷大学付属 平安中高	34名	公開授業：プレゼンテーション発表 テーマ「将来やりたい職業」 増田先生 各学校授業紹介
5	情報科研究会冊子	3/31(土)		100部	総会・研究会の案内と報告
6	Webサイトの運用	常時			http://www.kyoto-shigaku.info/

2) 常任委員会活動概要

	委員会名称	実施日	場所	参加	議題等
1	第1回常任委員会	4/11(月)	立命館中高	9名	総会の準備
2	第2回常任委員会	6/13(月)	大谷中高	8名	夏期研究会の準備
3	第3回常任委員会	7/ 1(金)	龍谷大学(瀬田)	9名	秋期研究会の準備
4	第4回常任委員会	10/10(月)	同志社中高	9名	冬期研究会の準備
5	第5回常任委員会	3/13(火)	華頂女子中高	9名	年度のまとめ

3. 2011年度 総会・研究会の報告（記録と資料）

(1) 通常総会

日 時：2011年 5月12日（木）17時00分～18時30分

場 所：同志社国際中学校・高等学校コミュニケーションセンター

参加者：16名

配布資料：2010年度情報科研究会活動記録集、各校情報科シラバス

1) 同志社国際中学校・高等学校コミュニケーションセンターの見学

同志社国際中高の本田先生から、コミュニティセンターの紹介とセンターの内の説明をしていただく。1997年に図書館とメディアセンターの一体化し設置された。約190台のノートパソコンが用意され、5つのゾーンに色分けされた場所で同時に様々な教科で授業が行われている。





2) 2010年度事業報告・収支決算報告【審議事項】

事業報告について、京都橋の長谷川先生から記録集39ページをもとに説明。拍手で承認。

収支決算について、華頂女子の酒井先生から記録集39ページをもとに説明。東山の瀧内先生からの監査の報告があり、拍手で承認される。

最後に、龍谷大平安の野口委員長から、情報科研究会の会費について報告がある。2010年度から回収しなかった会費について、2009年度までの残った会費を「情報科研究会記録集」の冊子作成費用の補助として使い切り、会費を払っていただいた学校に人数分配布し、それ以外の学校には1冊ずつ配布することとした。

3) 2011年度事業計画・予算計画【審議事項】

京都橋の長谷川先生から記録集40ページをもとに説明。

夏期研究会について7月4日に大谷高校で「プレゼンテーション」をテーマに、プレゼンテーションをどう指導していくかを考える。京都教育大学の安東先生に依頼中。

秋の研究大会について10月10日（祝）に同志社高校で行われることを案内。テーマは検討中。

冬期研究会について、龍谷大平安中高の増田先生の公開授業と生徒作品紹介が行われる案内がある。

4) 各校の授業概要についての情報交換

各校の「情報」授業でのシラバスや授業計画に関わる資料を持ち寄り、参加いただいた先生方から説明をいただき、その後意見交換を行った。

また、プレゼンテーションの授業についての取り組みを情報交換した。主な内容は以下の通り。

東山高校

高3の企業紹介。小ネタを探してみんなが驚くこと、笑ってもらえることを発表させる。

京都橘高校

総合学習で、職業ごとにテーマを設け発表する。小論文をプレゼン版として取り組む。

龍谷大平安高校

旅行計画の行程表を4・5名のグループで作り売り込む。また3分間で自分をアピールするプレゼンも実施。

国際理解の授業で、模造紙作成や新聞を読ませたりアンケート調査を行う取り組みのあと、考察発表させる。

議事内容：

司会（山本） ※敬称略

1. 同志社国際中学校・高等学校コミュニケーションセンターの見学
2. 挨拶
3. 2010年度事業報告と収支決算報告（審議事項）
資料 「研究会事業費の計画額算出表」「研修事業計画書」
4. 2011年度事業計画・予算計画
資料 「研修事業計画書」
5. 学習会 各校の授業概要についての情報交換
資料 各校からのシラバス
6. 閉会挨拶

(2) 夏期研究会

日 時：2011年 7月 4日（月）15時00分～18時00分

場 所：大谷中・高等学校 化学講義室

参加者：36名

1) 基調講演「中学校段階における情報教育」…京都教育大学副学長 安東 茂樹氏

(資料)

中学校技術分野(情報)の学習指導要領

京都教育大学 安東茂樹

1. 中学校新教育課程の概要

中学校新教育課程の改善の方向性として、日本国憲法に従って、およそ60年振りに教育基本法が、そして学校教育法が改正され、それを基に平成20年3月に新学習指導要領が告示された。学習指導要領は、社会の変化や子どもの状況に応じて概ね10年ごとに改訂され、今回も、これまでと同様に教育の普遍的な目的の実現が図れるかという観点で構成された。

教育の目的として、教育基本法第一条の「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」が求められている。学習指導要領は、知識基盤社会の時代において、「生きる力」をはぐくむという理念の重要性を示し、OECDの主要能力（キーコンピテンシー）という考え方を先取りしたものである。平成18年12月に教育基本法が改正され、教育の目標等が新たに規定された。そして、平成19年6月に学校教育法が改正され、「生きる力」の基礎となる「学力の要素」は、①基礎的・基本的な知識・技能の習得、②知識・技能を活用して課題を解決するためには必要な思考力・判断力・表現力等、③学習意欲、の3点が特に重要であると示した。

国立教育政策研究所の調査や国際的な学力調査の結果から、生徒の現状として、①思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題に課題、②読解力で成績分布の分散が拡大、③学習意欲の低下と家庭での学習時間などの学習習慣・生活習慣に課題、などが挙げられた。また、全国学力・学習状況調査（小学校6年と中学校3年対象）において、基礎的・基本的な知識・技能は概ね身に付いているが、知識・技能を活用することに課題があり、生徒自身の自信の欠如や自らの将来への不安、及び体力の低下など、心と体の状況にも課題のあることが明らかになった。

技術・家庭科の教科目標は従来と同様で、基本的な考え方で変更はない。ただ、これからの生活を見通し、よりよい生活を創造するとともに社会の変化に主体的に対応する能力を育成するため、それぞれの分野の目標と内容について改善を図った。

技術分野の目標は、ものづくりを支える能力などを一層高めるとともに、よりよい社会を築くために、技術を適切に評価し活用できる能力と実践的な態度の育成を重視した。技術分野の内容は、現行の2つの内容構成を改め、4つに再構成し、すべての生徒に履修させることとした。内容の取扱いで、各項目で扱う内容について示し、全体を通して、技術にかかわる倫理観や、新しい発想を生み出し活用しようとする態度の育成を求めた。結果として、現行の「B情報とコンピュータ」の(2)(3)(4)の基本操作や利用などの内容が削減され、現行のA、Bの内容の選択

項目（5）（6）が必修化したと位置づけられる。

技術分野の学習は、日本の産業の特徴であるものづくりを支える知識及び技術を習得させ、「社会で用いられている技術」や「持続可能な社会の構築」を目指すものである。すなわち、これからの生活を創造するために、社会の変化に主体的に対応する観点から、ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技術を習得させるとともに、技術と社会・環境とのかかわりについて理解を深め、よりよい社会を築くために技術を適切に評価・活用する能力と態度を育成することである。

2. 技術分野の新学習指導要領

①新しい学習指導要領

第8節 技術・家庭

第1 目標

生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

第2 各分野の目標及び内容

〔技術分野〕

1 目標

ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

2 内容

A 材料と加工に関する技術

- (1) 生活や産業の中で利用されている技術について、次の事項を指導する。
 - ア 技術が生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割について考えること。
 - イ 技術の進展と環境との関係について考えること。
- (2) 材料と加工法について、次の事項を指導する。
 - ア 材料の特徴と利用方法を知ること。
 - イ 材料に適した加工法を知り、工具や機器を安全に使用できること。
 - ウ 材料と加工に関する技術の適切な評価・活用について考えること。
- (3) 材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作について、次の事項を指導する。
 - ア 使用目的や使用条件に即した機能と構造について考えること。
 - イ 構想の表示方法を知り、製作図をかくことができること。
 - ウ 部品加工、組立て及び仕上げができること。

B エネルギー変換に関する技術

- (1) エネルギー変換機器の仕組みと保守点検について、次の事項を指導する。
 - ア エネルギーの変換方法や力の伝達の仕組みを知ること。
 - イ 機器の基本的な仕組みを知り、保守点検と事故防止ができること。
 - ウ エネルギー変換に関する技術の適切な評価・活用について考えること。
- (2) エネルギー変換に関する技術を利用した製作品の設計・製作について、次の事項を指導する。
 - ア 製作品に必要な機能と構造を選択し、設計ができること。
 - イ 製作品の組立て・調整や、電気回路の配線・点検ができること。

C 生物育成に関する技術

- (1) 生物の生育環境と育成技術について、次の事項を指導する。
 - ア 生物の育成に適する条件と、生物の育成環境を管理する方法を知ること。
 - イ 生物育成に関する技術の適切な評価・活用について考えること。
- (2) 生物育成に関する技術を利用した栽培又は飼育について、次の事項を指導する。
 - ア 目的とする生物の育成計画を立て、生物の栽培又は飼育ができること。

D 情報に関する技術

- (1) 情報通信ネットワークと情報モラルについて、次の事項を指導する。
 - ア コンピュータの構成と基本的な情報処理の仕組みを知ること。
 - イ 情報通信ネットワークにおける基本的な情報利用の仕組みを知ること。
 - ウ 著作権や発信した情報に対する責任を知り、情報モラルについて考えること。
 - エ 情報に関する技術の適切な評価・活用について考えること。
- (2) デジタル作品の設計・制作について、次の事項を指導する。
 - ア メディアの特徴と利用方法を知り、制作品の設計ができること。
 - イ 多様なメディアを複合し、表現や発信ができること。
- (3) プログラムによる計測・制御について、次の事項を指導する。
 - ア コンピュータを利用した計測・制御の基本的な仕組みを知ること。
 - イ 情報処理の手順を考え、簡単なプログラムが作成できること。

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A材料と加工に関する技術」の(1)については、技術の進展が資源やエネルギーの有効利用、自然環境の保全に貢献していることや、ものづくりの技術が我が国の伝統や文化を支えてきたことについても扱うこと。
- (2) 内容の「Bエネルギー変換に関する技術」の(1)のイについては、漏電・感電等についても扱うこと。
- (3) 内容の「C生物育成に関する技術」の(2)については、地域固有の生態系に影響を及ぼすことのないよう留意すること。
- (4) 内容の「D情報に関する技術」については、次のとおり取り扱うものとする。
 - ア (1)のアについては、情報のデジタル化の方法と情報の量についても扱うこと。(1)のウについては、情報通信ネットワークにおける知的財産の保護の必要性についても扱うこと。
 - イ (2)については、使用するメディアに応じて、個人情報の保護の必要性についても扱うこと。
- (5) すべての内容において、技術にかかわる倫理観や、新しい発想を生み出し活用しようとする態度が育成されるようにすること。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
 - (1) 技術分野及び家庭分野の授業時数については、3学年間を見通した全体的な指導計画に基づき、いずれかの分野に偏ることなく配当して履修させること。その際、家庭分野の内容の「A家族・家庭と子どもの成長」の(3)のエ、「B食生活と自立」の(3)のウ及び「C衣生活・住生活と自立」の(3)のイについては、これら3事項のうち1又は2事項を選択して履修させること。
 - (2) 技術分野の内容の「A材料と加工に関する技術」から「D情報に関する技術」並びに家庭分野の内容の「A家族・家庭と子どもの成長」から「D身近な消費生活と環境」の各項目に配当する授業時数及び履修学年については、地域、学校及び生徒の実態等に応じて、各学校において適切に定めること。その際、技術分野の内容の「A材料と加工に関する技術」の(1)及び家庭分野の内容の「A家族・家庭と子どもの成長」の(1)については、それぞれ小学校図画工作科、家庭科などの学習を踏まえ、中学校における学習の見通しを立てさせるために、第1学年の最初に履修させること。
 - (3) 各項目及び各項目に示す事項については、相互に有機的な関連を図り、総合的に展開されるよう適切な題材を設定して計画を作成すること。その際、小学校における学習を踏まえ、他教科等との関連を明確にして、系統的・発展的に指導ができるよう配慮すること。
 - (4) 第1章総則の第1の2及び第3章道德の第1に示す道德教育の目標に基づき、道德の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道德の第2に示す内容について、技術・家庭科の特質に応じて適切な指導をすること。
- 2 各分野の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
 - (1) 基礎的・基本的な知識及び技術を習得し、基本的な概念などの理解を深めるとともに、仕事の楽しさや完成の喜びを体得させるよう、実践的・体験的な学習活動を充実すること。
 - (2) 生徒が学習した知識及び技術を生活に活用できるよう、問題解決的な学習を充実するとともに、家庭や地域社会との連携を図るようにすること。
- 3 実習の指導に当たっては、施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火

気、用具、材料などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意するものとする。

- 4 各分野の指導については、衣食住やものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や、生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮すること。

②技術分野の改善の方向性

ものづくりを支える能力を重視する視点から、創造・工夫する力や設計通りの正確な製作、製作を通じた協調性・責任感など他者とのかかわる力、知的財産を尊重する態度、及び勤労観・職業観などの育成を目指した学習活動を充実する。「社会で用いられている技術」は、目的を達成するために計画・設計し、製作（制作）・育成し、さらにその結果を評価するといった、科学的な知識及び身体的な技能などを用いて具体的な「もの」を創造することである。言い換えれば、経済性や効率及び安全性や耐久性などの要素を考慮したものづくりの過程を通して、生徒の能力や態度を育成し、巧緻性や勤労観及び倫理観などの人間形成を求めている。

③各内容の解説

「D情報に関する技術」の内容

この学習の内容は、(1)情報通信ネットワークと情報モラル、(2)デジタル作品の設計・制作、(3)プログラムによる計測・制御の3項目で構成されている。(1)のア、イ、ウでは、情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を、(2)と(3)で、(1)で学んだ内容を活用したデジタル作品の設計・制作とプログラムによる計測・制御を行う。そして、(1)のエでは、情報に関する技術の評価と活用について指導する。ここで取り扱う学習は、小学校段階で、基礎的・基本的な情報操作等が備わっていることが前提で、情報を一つの学問分野として取り扱う内容に限定し構成している。情報に関する技術の進展が、社会生活や家庭生活を大きく変化させてきた状況とともに、多くの産業を支えている実態を理解させることに重要な役割がある。

「情報」に関する技術の学習では、小学校や中学校の他教科等における情報教育との関連及び高等学校との接続に配慮して、内容の深化と再構成がなされ、デジタル作品の設計・制作とプログラムによる計測・制御を必ず指導することとなった。情報に関する技術の進展が、社会生活や家庭生活を大きく変化させてきた状況とともに、情報通信ネットワークや機器の制御など、情報に関する技術が多くの産業を支えていることを踏まえ、情報の活用を評価・改善するための基礎的な方法について理解させるよう配慮する。

おわりに

技術科教育は、技術を理論的に考えるだけでなく、ものをつくる過程を通して、地球温暖化防止のためのエネルギー資源や森林資源の有効利用など、科学の応用としての技術の重要性とその意義を学ばそうとしている。したがって、身近な技術や社会で用いられている技術を適切に判断できる能力の育成を通して、トレードオフやアセスメント、及びコントロールなどを身に付けさせるテクノロジー教育としての技術を位置づけた改善である。

2) 小中における情報教育 現役教員からのレポート

●石原 一繁氏 (京都市立紫野小学校教諭)

「情報教育 小中高の接続 ～市立小学校の現状から～」

京都市立紫野小学校
石原 一繁

1. はじめに

2. 子ども達の視点から

①子ども達にとっての情報教育

ア、小学校という場での情報教育

小学校で子ども達が「情報」や「情報機器 (ICT)」を扱ったり、知ったりする3つの時間

→総合的な学習の時間、生活科、学級活動で利用する

各教科のまとめで利用、5年「社会」で情報モラルを扱う。

イ、市立学校での授業時間

○情報の時間はとても楽しみ。パソコン使える!パソコン大好き!

→ パソコンがない家庭もある。パソコンに触れると喜ぶ。

ゲームや調べることなどゲーム感覚

教員からは遊ばせることができても、ExcelやPowerPointの指導が出来ない。

○調べ学習の時間はパソコンで調べたらいいと想っている。

→ パソコンですぐに調べる。能力がないとその後がしんどい。

いざ利用するとなるとデータが読めない。そのまま書き写してしまうこともある。

○パソコンで「まとめる」ことを敬遠しがち

→ 新聞などを利用してまとめることは苦手。

ローマ字は小3の国語の時間で学習する。全員が理解していない場合もあり、時間がかかる。

逆に手で書いた方が早い場合もある。レイアウトや見出しの工夫が必要。

○情報モラルへの意識向上の難しさ

→ インターネットの危険性は理解していない。気づかない。携帯電話は持っていない。

保護者は学校で情報モラルに関する授業を受けていない。→家庭で教育出来ない。

保護者懇談などで取り入れて啓発している。

②子どもたちとコンピュータ

ア、コンピュータ本体を使用する力・スキル

イ、本校・本学級 (6年生) での取組 ～指導者側の視点から～

3. おわりに

→ 全市的にインターネットのWebページで教員から情報発信している。

各学校では大型テレビやPCが導入されている。

5・6年生にはすべてに電子黒板の導入がすすめられている。

3年前にすべての教室・すべての教員にPC配置が行われた。PCがないと仕事が成り立たない。

高学年は専科の教員が配置されている。どの教科でも教室での提示の仕方に工夫が必要。

情報教育として、小学校はスタートとして大事と考えている。

●畑 謙次氏（京都橘中学校技術科講師）

（資料）

中学校技術情報カリキュラム内容（週 1 時間）

総合学習を 0.5 時間履修する名目で

時期・月	使用ソフト	内容
2 年生	イントラパック	キーボードレッスン
3 年生 4 月	インターネット ワード	修学旅行調べ学習 ワープロ練習（ローマ字入力）
5 月	ワード ワードとペイント	ワープロ実技テスト 修学旅行の思い出文集作り
6 月	ワードとペイント インターネット	修学旅行の思い出文集作り 職業適性検査 資格調べレポート
7 月	インターネット	職業適性検査資格調べレポート
9 月	インターネット	高等学校、専門学校調べとまとめ
10 月	インターネット	高等学校、専門学校調べとまとめ まとめ実技テスト
11 月	エクセル	寝屋川市の国勢調査から分かること表作成、関数、グラフ
12 月	ワードとペイント	年賀状の製作
1 月	ワードとペイント	シュールレアリズムの世界を作ろう
2 月	ワードとペイント ワード	シュールレアリズムの世界を作ろう CD ケースカバーの製作

今年度（週 0.5 時間）

1. 制御 メロディックロックの製作とアラーム曲のプログラミング
2. エクセル 寝屋川市の国勢調査から分かること

3) 質疑応答・ディスカッション

Q こどものコンピュータに対する必要性を感じていないという点を具体的に

A（石原先生）

京都市の五年生にキャリア教育で職業体験に近いものを行う。銀行に行ったり、コンビニのレジを操作したり、契約書をとって来るとか、書類を作ったり体験している。この体験学習でも利用するので、PC の利用などは実感があると思っているのだけれど、アンケートを見るとあまり反映していないようだ。

ローマ字入力も必要だし、力をつける必要はあると思う。保護者もあまり小学生段階で力をつけるという意識はなかったりする。

結局、実体験のものを PC の利用をどう関係づけられるかは課題。

Q 親が使いこなしていないので、子どもたちもできないということはないか？

コンピュータのことで、親子で相談するようなことはあるか？

A (石原先生) 教員よりも上回って使える生徒もいるし、保護者がぜんぜん知らないところもある。どう教えていいのかわからない、不安に思っているところもある。交通安全と一緒に、自分たちで身につけるといっても必要だと思っている。

Q 小学校ではモラル学習なども行っているのか？

A (石原先生) 安全面については特にこだわって話している。

情報を調べる手段などは、情報の時間だけではなく、国語や社会などでもプラス面の場合は扱っていく。信憑性の判断というか、批判的な視点は、シャワーのように浴びせていく必要もあると思うので、少しでも触れてやっていこうとは思っている。使い方に慣れていない先生方もあり、指導法も差があるので、全市で指導力をあげていくような取り組みも今は行っている。

Q 中学校での情報分野についての生徒の意識はどうだったか？

A (畑先生) 生徒にアンケートを取ったということはないのであまりわからないが。

知り合いの小学校の校長に聞くと、6年間のカリキュラムを組んでいるが、全部できるのかというとまだまだという話だった。新カリキュラムにおいても、中学校で基礎的な利用方法の部分を飛ばしてもいいのだろうか。やはりソフトウェアの使い方をきちんとやっていくのは、これからも必要なのではないかと考えている。高校と併設の学校にいるが、中学の授業でやったことを高校で同じようにワード・エクセルをやってしまうと、時間の無駄にも思う。橘中では、中2の段階でパソコンの操作を扱う予定。ものづくりは中1・中3で扱う。特に中3のものづくりの単元で、できあがったものをレポートのしたりプレゼンをしたりして、活用も考えている。制御やプログラムに特化してしまうと、基本的なところを切り捨ててしまうのではないかと。

Q 小学生はエクセルとかワードは知っているのか？

A (石原先生) 一般にプレインストールのオフィスはだいたい名前は知っている。小学校ではワード・エクセルではなく、パワーポイントと一太郎になっている。指導しにくい状態。たとえばエクセルを使おうと思うと、互換性がなく、結局は中学の指導にお任せすることになってしまう。

Q 高校ではスキルの低い生徒も入ってくる。重複して操作の授業をやっている。どう整理するのか。

A (畑先生) 旧カリキュラムでは学校ごとバラバラ、新カリキュラムでは教えましょうということだと思える。中学校ではジャストスマイル、三四郎というのを使っていたりする。7、8年前まではスズキ教育ソフトのHyper-Cubeを使っていた。統合型の特殊なソフトを使っているところもあると思う。広範囲のところから通ってくる私学の状況だとバラバラになってしまうのだろう。

Q 小中でソフトの使用法を授業したとして、高校では何をやるのか？

・Excelなどは問題解決の手段として使うという事になっている。知る→考える→わかるの途中の段階ではソフトを使うのは必要だが、考えさせる手段として利用する。

・今回お話を聞きまして、高校でやっていることは、中学でもやっているのだというのがわかってびっくりしている。

Q 生徒の使用法に対するスキルの差など、中高一緒のところと、そうでないところなど違いはあるか？

・高校からの生徒も多いので、ワードパワーポイントはしっかりしているが、高校から入学する生徒については、差が大きい。ホームポジションやキーボードのテストをしていたりということもある。

・あまり丁寧に見ていない。Word 2000なので、操作を教えるというのは意味がなくて、全部フォロー

するよりは、意識的に手を抜いている部分もある。あえて見ないことにして、協調学習ではないが、生徒同士で協力して取り組んでいる。

・オープンオフィスを利用するのに関連するが、小学校からだとも12年のスパンで考える必要があり、その中でソフトはバージョンアップしてしまう。学校と家の環境が違ったりということもある。勝手に使えてやりたいのだけど、原稿用紙設定などは、操作の仕方も含めて指導しないとイケない。学びなおしが必要だが、どこまで振り捨てていいのか迷っている。

・各教科で使っていないので、中1でやっても、中2中3で使わないので、高校にあがってくると忘れていく。中学校では楽しむという観点。高校では報告書のレイアウトや、フォントの工夫など、年齢に合わせてコンセプトを変えてやっている。ワープロというよりは文書作成という視点で指導している。

・高1で情報をやって、高2では国際理解をグループ学習で扱っている。ワード・エクセルなどは授業でなくてもいいという感覚。アンケート調査を発表もさせた。ほとんど問題なく操作できていた。苦手な生徒も周りの生徒がサポートしてくれていた。高1では、ソフトの起動から教えている。

Q 教員養成で大学生を教えられていて、高校でつけておく力はこういったものとお考えか？

A (京女：平田先生) 大学生はWordできない。内容は別として体裁はできない。表紙をつけなさいとか余白はどうか何行かなど、5人に1人くらいはできない。自分の思いを発表させるときに、パワーポイントを使ってするのも、使い方はほとんど知らないし、できない。学生は聞きに来る。中1で中2～中3が飛んでいるのと同じで、高2～3が抜けてという感覚。コンピューター室はLLで使うが、情報基礎のようなことはやっていない。あまり大学生だから高校生のことがきっちりできているということではない。大学の先生方でもWordやExcelをきっちりできるようになってほしいと思っている。分析までいかない。作るどころまでが大変という声を聞く。

やっぱり携帯みたい。リサーチの授業も高校でやったが、携帯でレポートを作成する生徒もいる。もちろんWordで最後は完成させるが、だれかを代表を決めてその生徒にメールを送ってコピーで完成させるというやり方。ある意味すごい。

小学校で必要性を感じていないという話があったが、携帯があればそれでいいと思っているのではという気がした。コンピュータの恩恵を小学生は感じていないのでは。僕らはコンピュータがない時代を知っていて便利という感覚だけれども、当たり前となると恩恵がないのではないか。

Q 携帯電話からスマートフォンに変わっていく中で、パソコンは消えていくのではないかとスマートフォンを使うと家のパソコンを使わなくなった。利用の比率もどんどん減ってしまう。学校でワードを教えることの意味は低くなる。情報という教科の役割は低くなってしまふ。

A (畑先生) 大学まではそうかもしれないけど、社会人としての力は、やはりパソコンの操作を要求される。技術は必要とされている。小中高大だけではなく、その先に何をもって出ないといけないかという視点も大事。

Q 情報モラルの指導は、小中段階ではどう指導しているか？

A 小：京都市では情報担当の育成とあわせて、ガイダンスは児童向け保護者向けでも行っている。携帯電話の利用やチェーンメールなど、まずは紹介するというレベル。指導となると、全員が指導できる状況ではない。いろんな教科を教えないとイケない分特化できない。最低限どこまで教えなければならないかということは考える必要か。

中：やって意味があるのかどうか？ やってはいけませんという指導になってしまう。それを聞いて子どもが意識しているのかが感じられない。モラルはやらないとだめだから話はするが、実際に危ない目にあって経験

しないとわからないのではとも思う。ほんとにそれを必要としない限り、馬の耳に念仏となる。刺激的な情報をうまく交えて具体的に扱う必要がある。

・中2～3で授業をしているが、実際には教えて切れていない。中1で徹底させたいと思うが、今の事例なども単発で講座をやっていたりで、効果があるかなと感じている。見えない相手とどう向き合っていくか、コミュニケーションをどう取るのかの学びをどうしたらいいのか。失敗事例を挙げるのは簡単だけれど、何かよい指導法があれば、考えさせたいと考えている。

議事内容：

1. 開会あいさつ
2. 基調講演「中学校段階における情報教育」…京都教育大学 副学長 安東 茂樹氏
3. 小学校・中学校 現任教員からのレポート
石原 一繁氏（京都市立紫野小学校教諭）
畑 謙次氏（京都橘中学校技術科講師）
4. 質疑応答
5. 閉会あいさつ

(3) 第10回京都府私立中学高等学校教育研究大会情報科分科会（秋期研究会）

日 時：2011年10月10日（月・祝）13時15分～16時15分

場 所：同志社中学高等学校 知創館MC P S

参加者：23名

第13分科会 情報科

研究目標 「プレゼンテーションの意味、よいプレゼンテーションのために必要なものを考える」

1) 委員長からの挨拶 情報科研究会 委員長 野口先生 （龍谷大学付属平安）

今年で三年目となった情報科研究会は、毎年テーマを変えて、授業に生かせる研究を行っている。今年はプレゼンテーション指導について龍谷大学社会学部の東田先生に講演していただく。

2) 講演 発表者：龍谷大学 社会学部コミュニティマネジメント学科 東田晋三先生とゼミ生

資料：配布資料（目的、目標、方針が書かれたもの）

目的、ゴール：この講演を通して一つでも学校で使えるものがあってほしい。また大学のキャリア教育と高校のキャリア教育について話が深めたい。

A) プレゼンテーション指導の背景について

前職での体験、またキャリアデザインや体験教育などの経験が現在のプレゼンテーション指導の背景となっている。

B) プレゼンテーション指導の骨格

ゼミ学習は「企画」を教材として行っている。プレゼンテーション大会やディスカッションなどの学習を中心に行っているが、目標達成に向かってゼミ生、チームが一丸となって学んでいる。学年を超えたゼミ生の交流などもあり、毎日学生は積極的に学んでいる。

C) 学生によるプレゼンテーション及び質疑応答

1: 人に伝わるプレゼンテーションとは

2: 3つのポイントと理由

3: まとめ

上記を基本として、東田ゼミ生5人による「東田教授とは」というプレゼンテーションを行った。発表後、5人チームとなり、作業を進めてきたプロセスを紹介してもらった。またゼミでプレゼンテーションについて勉強をすることで、実生活や就職活動にも役立っていることなどを話してもらった。

D) 質疑応答

参加している先生に、今回のプレゼンテーションについて、ゼミでの活動、高校時代の情報の勉強についてなど自由な雰囲気での質疑、会話が行われた。

3) 閉会の挨拶 情報科研究会 委員長 野口先生 （龍谷大学付属平安）

東田先生の講演とゼミ生による発表、そして質疑応答などとても充実した会となった。高校において情報科の役割がこの研究会で少し見えてきたと思う。

今回は冬期研修会を1月に龍谷大学附属平安中高で行う予定であり、実際に公開授業を行い、生徒たちの様子を見てもらう予定である。

議事内容：

1. 開会の挨拶
2. 講演 発表者：龍谷大学 社会学部コミュニティマネジメント学科 東田晋三先生とゼミ生
3. 休憩
4. 模擬プレゼン 東田ゼミ生
5. 質疑応答
6. 閉会の挨拶

(講演レジュメ)

■目的

＊私が大学ゼミで取り組む以下の教育指導を紹介することで、高校現場の教育指導に少しでも役立つ

1. プレゼンテーションの指導
2. ゼミ指導内容の背景

■目標

＊たとえひとつでも、それぞれの現場で使ってみようと思う考え方や具体的な方法を先生方に持ち帰っていただく

■方針

1. 整理された情報より、より普段の指導を再現できるようにする
 - ・学生の発表を入れる
 - ・東田と学生と参加者（先生方）との会話を生み出せるようにする
2. 具体的な方法よりもその指導の背景や考え方について紹介できるようにする
 - ・東田が高校現場の状況について不案内であるため
 - ・高校現場と大学現場の違いは、かなり大きいと推測しており、出来るだけピント外れな話を防ぐため
3. 以下の4点で構成する
 - A) ゼミの学習概要 学習目標
 - B) 私の指導バックグラウンド
 - C) プレゼンテーションを学習プログラムの軸にしている背景（思い）
 - D) プレゼンテーション指導（学生による事例発表）

♥自己紹介は、後ほど学生がやってくれますが、簡単に

関西学院大学を卒業後、婦人服の付属品の会社からベネッセコーポレーション。テスト事業部、経営企画などを経て、人材開発事業部の事業責任者として、適性検査や社会人向け通信教育、企業研修のプログラムなどの開発・販売を担当。縁があって、ジョージア大学でキャリア教育を研究。大学で教えるようになって10年。
<「東田ゼミ」で検索 学生が企画運営するゼミHPにも詳しく掲載>

■講演内容

A)ゼミの学習概要 学習目標

◎配布資料の確認 (2,3回生ゼミシラバス)

◎私の一貫した教育目的 (何のために教えるのか)

1. 大学を卒業する時、学生が以下の所感を心の底から持つようにするため

◇よく勉強した、そしてよく遊んだ

◇一生の友達ができた (みんなに出会えて良かった)

◇この大学に来て良かった

◇お父さんお母さん、心から有難う

◇自分を信じて、人生を自分で作っていくぞ

◇周りの所為にしない

2. 卒業して周りから信頼される行動ができる人を育てるため

・自分の言葉と行動に責任を持ち、社会で信頼される人間になるための基礎的な考え方を身につけた学生を社会に送り出したい。

◎私の教育目標 (ゴール)

・幸せになるのは難しいけれど、「幸せな瞬間」を数多く作られるような生き方を選択できる学生を出来るだけたくさん社会に出し続ける。

つまり、誠実に、自分や家族や周りの人のために汗して働ける (動ける) 人になってほしい。

B)私の指導バックグラウンド (一部) 20分

◎Benjamin bloom's taxonomy of learning (ベンジャミン ブルーム)

Cognitive domain の 6レベル (Knowledge, Comprehension, Application, Analysis, Synthesis, Evaluation)

◎D-IDP ワークモデル (東田晋三)

「Dialogue(会話)」「Inquiry (調査・照会・問合せ)」「Discussion(討論・討議)」「Presentation (発表・提示)」の頭文字をとって、**D-IDP ワークモデルと命名**

◎フロー理論 (チクセントミハイ) キーは「しんどいけど楽しい」

C)プレゼンテーションを学習プログラムの軸にしている背景 (思い)

1) 非常に多様な感情や思考を持っているのに、それをうまく伝えることが上手くない。実に残念である。

2) プレゼンテーションは、誰もが使えるコミュニケーション手段であることを伝えたい。

3) そして、練習すれば誰もが上手くなる。個人で早い遅いがあるだけ。

- 練習の方法がある

- 機会を多く与える

D) プレゼンテーション指導

- 指導のゴールイメージ

1. プレゼンテーションスキルは、自分で作っていくものとする
2. 機会があればプレゼンテーションを人前でやりたくなるようにする

◎ プレゼンテーションの3大要素の説明

- A) 何を伝えるのか（論理構成）
- B) 自分らしさ（物語を語る。スライドは、その物語の演出道具。）
- C) 感動（心に残るメッセージを届ける。一貫したメッセージ性。根拠がしっかりしている。）

A) 何を伝えるか（論理的構成力）

- * 結論をしっかり伝える。「何を伝えるか」
- * その理由を、説得力をもって話す「何故を分かりやすく伝える」

B) 自分らしさ（人間力）

- * 原稿を読むのではなく、自分の言葉で語る

C) 感動（コミュニケーション力）

- * 感動とは「心に残るメッセージ」
- * 間を（巧みに）取る

①役に立つ（使ってみよう）

②リアル（身近である）（やれば、出来そう）

- * メッセージは根拠がしっかりしていて、信頼できる（つまり論理的に導かれている）

■ところで、プレゼンテーションって

*伝えたいことを決められた時間のなかで、想定したターゲットの心を動かし、自分（達）らしく届けるコミュニケーションのひとつ

☺プレゼンテーションの目的

- A) 自分の主張（結論）を正しく分かりやすく簡潔に伝える
- B) 相手の理解を得、納得を引き出す

☺プレゼンテーションを構成する要素

*プレゼンテーションをする人

*メッセージ

*チャネル（道具）

*プレゼンテーションを見る、聞く人

※チャート図を使う

- ①バーチャート（bar chart） 横棒図
- ②カラムチャート（column chart） 縦棒図
- ③パイチャート（pie chart） 円グラフ
- ④ラインチャート（line chart） 折れ線グラフ
- ⑤ドットチャート（dot chart） 分布図

以上5大チャート図

その他、積層棒グラフ、レーダーチャート、半円グラフ、拡散チャート、三角図、ガントチャート、系統図、フローチャート、マトリックス図、ポジショニングマップ、フィッシュボーンなど

伝わるプレゼン
～私達が大切にしている事～

2011. 10. 10
龍谷大学社会学部
葛上葉也加、中元健二、服部美紀、山内翼

東
とは？
教授

1. 結論

東田教授とは…

悪魔でなく天使

2. 理由

厳しい指導

成長して欲しい

2. 理由

ルールは捨てろ！
「楽」を喜び！

企画
つくり方、見せ方の技術

2回生
3回生
4回生

1. 幹事会	25. 演説	48. 第8回合同ゼミコン
2. 英語スピーチ	26. 前期外部講師	49. 第9回合同ゼミコン
3. 仕事能力研究	27. 前期東洋学園大学交	50. 第4回合同日杯
4. Script Reading	28. 後期ビジネスディベート	51. 2回生夏合宿フォロー
5. 夏合宿	29. 後期東洋学園大学交	52. 4回生夏合宿
6. 夏合宿宴会	30. 夏合宿	53. 卒研対策合宿
7. 秋合宿	31. R-1	54. 卒研対策合宿
8. 日本語スピーチ	32. マナー会議	55. Script Readingフォロー
9. プレゼン講座	33. 後期外部講師	56. プレゼン講座フォロー
10. HP作成	34. 新2回生向けプレゼン	57. キャリアデザイン論フォー
11. 春合宿	35. 後期ビジネスディベート	ロー
12. 第1回合同ゼミコン	36. TOEIC	58. ディベートフォロー
13. 第2回合同ゼミコン	37. SPI	59. 就職活動対策
14. 第3回合同ゼミコン	38. 就職活動対策合宿	60. 卒業研究
15. 第4回合同ゼミコン	39. 卒研サポート	61. 卒業式
16. ゼミコン	40. 第5回合同ゼミコン	62. 卒業旅行
17. えいび杯	41. 第6回合同ゼミコン	63. 経営マインド
18. 第1回合同日杯	42. 第3回合同日杯	64. キホンのキ作成
19. 第2回合同日杯	43. インターンシップ対策	65. 外部講師フォロー
20. 卒研サポート	44. 3回生春合宿支援	66. 卒業アルバム・文集制作
21. 幹事会	45. 東田ゼミとはプレゼン	67. 卒業映像制作
22. 3回生presents☆世界	46. キャリアプランニング	68. SPI対策フォロー
23. 5月合宿	47. 第7回合同ゼミコン	69. 同窓会
24. インターンシッププレゼン大会		70. BESTSHOT

2. 理由

東田ゼミ!!!!

ミーティング :3.0時間
文献調査など :2.2時間
メール確認など :2.0時間

1日平均
7.0時間

(H23年度東田ゼミ生生活調査)

お金に換算すると 6,300,000円

(時給900円計算)

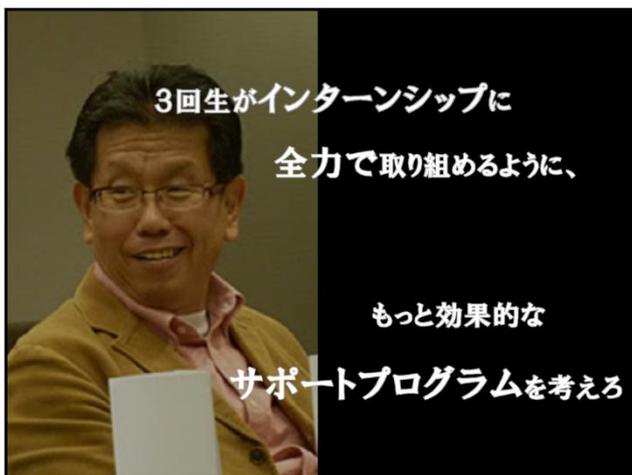


3. 具体例

今年3月

1日平均	6時間
企業研究	1.5
ES作成	3
面接・試験	1.5

就職活動 → 時間をやり繰りしてサポート内容の考案



後輩の為に
真剣に考えてきたつもりだったのに
何故そんな風に
言われなければならないのか

5月中旬 友人とのある話

中元： 昨日学校行ったん？
友人： そやねん。
そう言えば学校で先生に会ってさ。
聞いたで～インターンシップの企画、
雷落ちたらしいやんか。
中元： ちょっ、せやねん！！
ほんまに、辞めたる思ったわ～

5月中旬 友人とのある話

友人： でもなあ、期待されてるみたいやで？
健二がもっと出来る事、先生は信じてるみたいよ。
中元： はあ？んなわけないやろ。。
友人： 「あいつはもっと出来るはずやのに」って。これって、けんじがもっと出来るとか、可能性に期待せんかったら言えんくない？
健二の成長の為に、わざわざ言ってたんやろな。

4. 再結論

東田教授とは…

悪魔でなく天使

“成長して欲しい” という想いがある

御清聴ありがとうございました

プレゼンテーション解説
～人に伝わるプレゼンテーションとは～

本日の流れ

1. 人に伝わるプレゼンテーションとは
2. 3つのポイントと理由
3. まとめ

1. 人に伝わるプレゼンテーションとは

3つのポイントを押さえているプレゼンテーション

論理



らしさ



感動



2. 3つのポイントと理由

①論理



プレゼンテーションの構成が論理的



筋道立てて説明する事で理解しやすい

2. 3つのポイントと理由

①論理

結論
↓
理由
↓
再結論

最も伝えたい事

結論を分かりやすくする為の
三段論法
根拠と事実

理由を踏まえた上で
最も伝えたい事



2. 3つのポイントと理由

②らしさ

プレゼンテーションの伝え方に
オリジナリティがある

↓

聴衆者に伝わっている



2. 3つのポイントと理由

②らしさ

具体的な事

5月中旬 友人とある話

中元： 昨日学校行ったん？

友人： そやねん。
そう言えば学校で先生に会ってさ。
聞いたで～インターンシップの企画、
奮発したらしいやんか。

中元： ちょっ、せやねん！！
ほんまに、辞めたる思ったわ～

↓

友人との会話を通して
らしさを伝えている

2. 3つのポイントと理由

③感動

伝えるメッセージが
現実的で分かりやすく、役立つ

- 現実的で分かりやすく
 - ⇒ 身近に感じる内容と言葉
- 役立つ
 - ⇒ 使ってみたいと思える内容



2. 3つのポイントと理由

③感動

伝えるメッセージが
現実的で分かりやすく、役立つ

↓

メッセージを聴衆者の立場にたって
考える事、伝える事で **共感**



2. 3つのポイントと理由

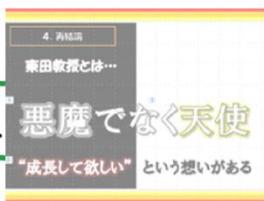
③感動

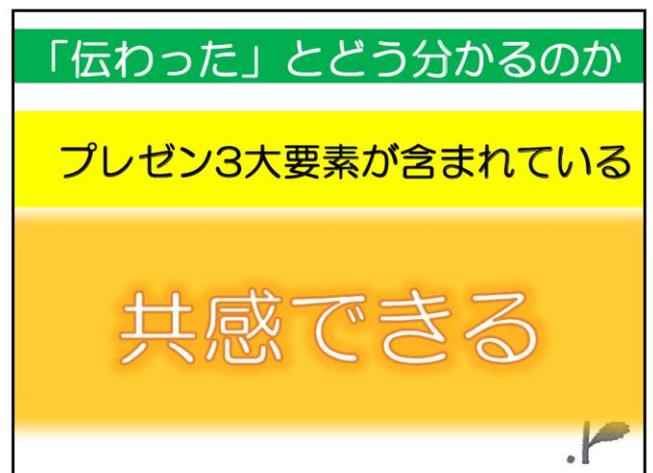
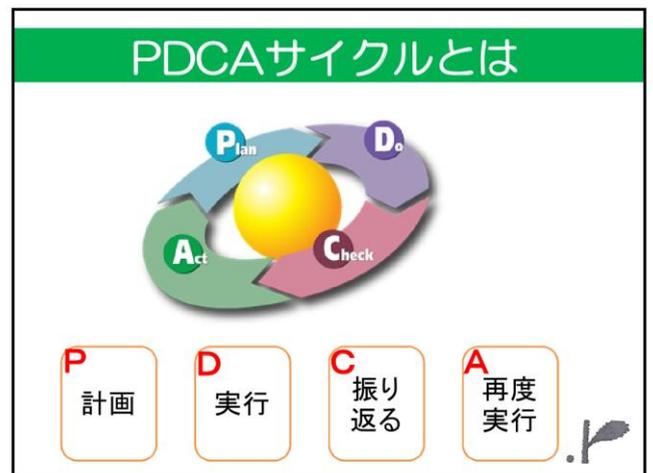
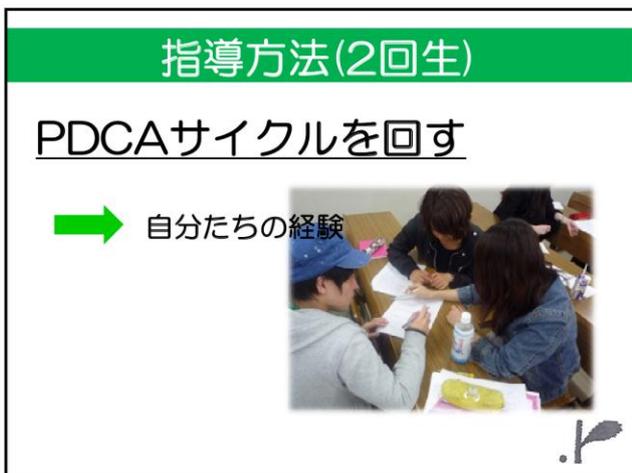
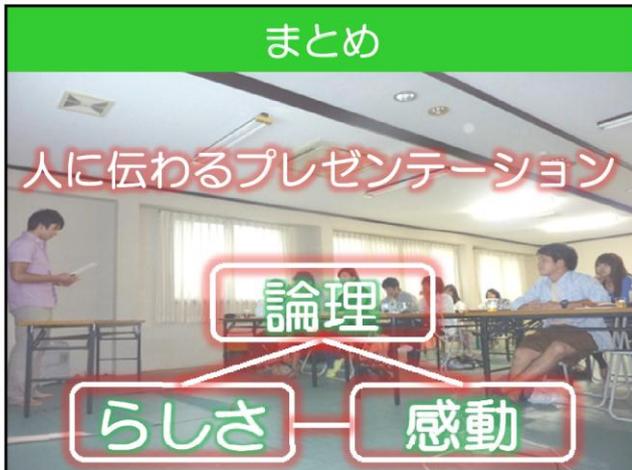
先生という立場を考え **悪魔でなく天使**

"成長して欲しい" という思いがある

中元君の言葉

「以上の経験から、東田教授は日々厳しい指導をされるが、中・高で指導されている先生方も、
なんだと考えると、同じ思いを持っておられる」





チームの決定方法

東田先生、お願いします。



モチベーションの上げ方①

9月 11月 12月

第1弾プレゼンテーション大会

出来ない自分に出会う

第2弾プレゼンテーション大会

出来ていく自分に出会う

第2弾プレゼンテーション大会

出来る自分に出会う



モチベーションの上げ方②

チームで取り組んでもらう

競争させる



プレゼンテーション3大要素

論理 構成が論理的であるか

らしさ 伝え方にオリジナリティがあるか

感動 メッセージが現実的で、
分かりやすく、役に立つか



3大要素の伝え方(2回生)

3大要素を踏まえたフィードバック

3大要素を心がけた
プレゼンを見せる



3大要素を身につける方法

実践すること

*PDCAサイクルを軸とする

計画

実行

再度実行

振り返る



教授からの指導

要素の話はされるが、
直接指導されることはない



パワーポイント作成方法

1枚のスライドで
何を伝えたいのかを明確にする

メッセージ

技術はどのように学んだのか

- ①何度もプレゼンテーションを行う
- ②先輩のプレゼンテーションを参考にする



話し方



年間プレゼンテーション回数

大会 平均6回/年 (3回生参考)

機会 平均6回/年 (4回生参考)



指導方法(高校生)



P
計画

D
実行

C
振り返る

A
再度実行



指導スケジュール



(4) 冬期研究会

日 時：2012年 1月31日（火）15時30分～18時30分

場 所：龍谷大学付属平安中学高等学校 至心館2階 情報教室

参加者：34名

1) 第1部 公開授業 プレゼンテーション発表

○公開授業 龍谷大学付属平安高等学校 増田純一

授業「情報A」1年

単元：プレゼンテーション

内容：大学入試でのプレゼンテーションという場面設定で「将来やりたい仕事」をテーマに発表を行う

情報科研究会 公開授業 資料

クラス感

1年9組 プログレスコース（国公立・難関私大進学を目指すコース）

基本的にまじめでおとなしい生徒が多い

騒がしくてもすぐに静かな状態に持って行きやすいが

わからない点があった場合にも言い出せない生徒が見受けられる

年間の流れ

「相手に自分の意見、考え、思いをいかに伝えるか」を年間テーマとして設定している。

前期

- ・情報モラル（座学）
- ・調べ学習
- ・4大装置
- ・WEBサイトの紹介文作成（ワードの基本的な操作）
- ・名刺づくり（情報デザイン）
- ・ネットショッピング
- ・情報モラルポスター作成（ワード）
- ・エクセル（基本的な操作と簡単な関数、グラフ）

後期

- ・将来の職業について考える（ワード、アウトライン機能） *1
- ・組写真作成（パワポの基本的な操作・話の展開） *2
- ・プレゼン作成
- ・グループ内発表 *3
- ・全体発表
- ・まとめレポート

本時の概要

大学入試という場面で「将来やりたい職業」というテーマのプレゼンテーション聞き手に思いを伝える、共感、納得させることを目標とする。

*1 どのような職業があるか調べつつ、自分の関心のある職業を選択し、なぜ興味があるのか、なりたいたいのかなど意識を高めるために作文させる。単に作文するのではなく、アウトライン機能を用いることで情報の整理の仕方も学ぶ。

*2 ショートストーリーを考えることでパワポの使い方を学習しながら同時に話の展開を考えさせる。

*3 作った後にそのまま発表するのではなく、小グループ内で発表しあい問題点などを指摘し合うことで洗い出し、修正する機会を設けた。

[1]授業の流れの解説（増田先生より）

●前期の流れ

モラル・リテラシを座学で勉強し、このときはPCは利用しない。

- ・調べ学習は調べ方（キーワードやカテゴリ検索）を取り組む。

50問くらいの検索の問題をつくり、取り組ませる。例）漢字がわからないもの → どう調べるか

- ・Webページ…紹介文をワードで作成
- ・名刺…フォントを二種類指定、白黒で限定して作成。
- ・夏休み前にネットショッピングについて扱い、トラブルに巻き込まれないようにしている。
- ・情報モラルのポスターの作成も行った。

夏休み明け

- ・エクセルの基本的な部分に取り組み、授業内で実技テストを行う。

●後期の流れ

パワーポイントを利用して「将来やりたい職業」をテーマに取り組む。

- ・作文「夢」をWordのアウトライン機能を使い記述させる。フレーズを文章になおしていく。
- ・Web上の適職診断などを使いながら探す。
組写真（5枚）を並べ替えて、話の展開を考える課題も行う。
- ・発想を柔軟にするため。起承転結の流れをつかむ上での体験をさせる。
- ・あそびの要素も含めて取り組んだ。

☆本単元

下書き用の紙をわたしスライドの構成を考えさせる。

スライドは5～7枚。3～5分の発表

（今日は、緊張して3分以内になってしまった生徒も多かった）

スライド枚数の制限をした理由は、流れをしっかりと構成させたかったから。

昨年と違う部分は、グループ内発表を取り入れ、お互いに指摘させて、相互評価につなげる。

[2]質疑応答

Q 生徒は原稿を持っていなかったように思うが、頭の中にあるのか？

A 手に持たないように指導している。

リハーサルをするようにも指示をしている。また、スライドの内容をメモして家で原稿を書いてリハーサルするようにも言っている。きっちり準備していた生徒はそうしている。

Q 聞く態度がしっかりしていたと思う。この授業以外で図書館で授業されるということだが、こういったことを想定されているのか？

A あらたまった場になったら生徒は緊張して、一生懸命聞いていた。聞く態度が大事、ヤジをとばさないといふことは言ってきている。

他教科との連動はできていない。ほかに2、3プレゼンをしている教科はある。

発表場所の問題だが、情報教室は本館地下にあり、座ると顔が見づらくなる。図書館では発表場所として考えている。普通教室などは日常つかう場所で集中しにくい部分もあり、会議室的なところで発表するのが良いと考えている。

Q デザインをうまく使っている。どのような指導をされていたのか？

A 前期に名刺のデザインを行った。また、戦隊ものの色からくるイメージを例に説明し、仕事の中身にあわせて色を選ぶようなことも話をした。モラルのポスター作成の際にも、写真に字がうもれないように、ということも注意させた。

Q 特に図書館司書でプレゼンしていた生徒は、ハートをモチーフにしたかわいいイラストをつかい印象を変えていた。

A 意図してないのでは？とも思うが、少しずつフォローをしていた。

Q 授業としての「しかけ」は何があったのか。授業冒頭に「今日のポイント」などの説明がなく、前回の続きというのがなかったのでは？

最後によく頑張っていたという「まとめ」があったが、発表ごとに即座にフィードバックがなかったのはなぜか？

A フィードバックは迷っていたのだけど、前の生徒の発表を見ながらコメントすると、差が出てしまうのではないかと思う。

Q 他校ではどのようなスタイルで発表や評価をさせているか？

(大谷) 8人のグループをつくり、グループの代表に意見を言わせている。他の意見を聞いてグループの中での評価をしている。生徒の評価は、プレゼンの出来・不出来が対象となる。それまでの準備の資料で評価をしている。

(立命館) 中3のプレゼンでは、評価シートを生徒も教員も記入する。名前の枠を消して匿名で生徒に返却している。生徒の評価は成績には入れていない。他の生徒の評価がどうだったかがわかる。

思ったことも一言いうようにしている。ただ中学生は人・キャラクターで評価が変わってしまうことも多くある。

点数をつけるのは客観評価の練習。コメントをわたす、振り返りが大事。

(京都国際) 中学で職場体験の発表をする。アニメーション・文字が見やすいかなど、満たすべきポイントを提示して、教員が評価する。生徒どうしの評価は難しい。好き嫌いが入ってしまう。

高校はテーマを設けて、「ぜひ使ってほしい便利なもの」を紹介する。発表せずに評価をしている。企画書でなぜそのテーマを設定したのか。教員に提出されたときにつっこんで書き直して提出したのかで見ている。筆記試験をいれて評価している。

(京都女子) コメントはしていない。40人に気の利いたコメントができない。ポスターセッション形式で質疑応答する形で発表させている。プレゼンの中身ではないが、技術的などは教師が見たらわかるのでなんとか評価をつけている。伝えるから共感・納得までさせるのは、迷っているところです。

ビデオで撮って見るというのをさせて発表もあるのかなと思う。

A 今回の授業では全員が前に立って発表することを重視した。

2) 第2部 各校の生徒作品発表会

(京都橘)

情報Aで公共CMの作成。選択授業でゲーム作成。

(文教)

新商品の開発を実施。生徒がアンケートを作成し、その結果に基づいて商品開発。

集計結果をグラフにしてプレゼン (例 「きのこの山」 季節の味、学校のゆるキャラ)

(立命館宇治)

プロセッシングという言葉でゲーム作成。

Web教材 (例 「弁当」をテーマに) を作成し、シンククエストに応募。文章表現にも注意させた。

高1の総合学習で、震災について自分たちなりに問題点を見出し、解決法を考えて発表。

(華頂)

女性のロールモデルを調べて発表。

企業と協力して商品開発 (例 みずほ銀行とお金についての教材作り)。「トゥワイスプラン」と共同実施。

冊子作り。1人見開き2ページ。

学校のフリーペーパー (カラー光沢紙) 作り。

(京都女子)

情報C・・・ポスターセッション形式でのプレゼン。新潟、東京、京都の3校でメディアリテラシーの授業。

情報B・・・紙パケットでルーターの役割を確認。プログラミングでコンピュータの制御。リレーショナルデータベースをGUIで。

(同志社女子)

1学期ワード、2学期エクセルだが、パソコン教室ではない授業に。どう使うかを重視。3学期、テーマを決めてレポート。オリジナルのデータを探し、まとめ直し、グラフ化。グラフを含めA4用紙4枚にまとめる。

議事内容：

●第一部 公開授業

15:30 ~16:20 授業「情報A」1年 増田純一 (龍谷大学附属平安高等学校)

単元：プレゼンテーション

16:30~17:20 公開授業についての質疑応答

●第二部 生徒作品発表会

17:30~18:30 各校の生徒作品発表会 各校5分程度

4. 京都府私立中学高等学校一覧（情報科研究会会員校）

学校住所	Tel	Fax
一燈園中学高等学校 〒607-8025 京都市山科区四ノ宮柳山町29-13	075-595-3711	075-595-6764
大谷中学高等学校 〒605-0965 京都市東山区今熊野池田町12	075-541-1312	075-541-7627
華頂女子中学高等学校 〒605-0062 京都市東山区林下町3丁目456	075-541-0391	075-541-5962
京都外大西高等学校 〒615-0074 京都市右京区山ノ内苗町37	075-321-0712	075-322-7733
京都学園中学高等学校 〒616-8036 京都市右京区花園寺ノ中町8	075-461-5105	075-461-5138
京都共栄学園中学高等学校 〒620-0933 福知山市篠尾62-5	0773-22-6241	0773-22-0968
京都暁星高等学校 〒626-0065 宮津市獅子崎30	0772-22-2560	0772-22-5902
京都芸術高等学校 〒611-0011 宇治市五ヶ庄西浦6番地2	0774-32-7012	0774-33-3698
京都光華中学高等学校 〒615-0861 京都市右京区西京極野田町39	075-325-5223	075-311-6103
京都国際中学高等学校 〒605-0978 京都市東山区今熊野本多山町1番地	075-525-3535	075-525-3563
京都産業大学附属中学高等学校 〒600-8577 京都市下京区中堂寺命婦町1-10（2012.4より）	075-279-0001	075-277-0300
京都翔英高等学校 〒611-0013 宇治市菟道大垣内33-10	0774-23-2238	0774-23-9088
京都女子中学高等学校 〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町17	075-531-7358	075-531-7377
京都精華女子中学高等学校 〒606-8305 京都市左京区吉田河原町5-1	075-771-4181	075-761-5238
京都聖カタリナ高等学校 〒622-0002 南丹市園部町美園町1-78	0771-62-0163	0771-63-0989
京都成章高等学校 610-1106 京都市西京区大枝沓掛町26	075-332-4830	075-331-0827
京都聖母学院中学高等学校 〒612-0878 京都市伏見区深草田谷町1	075-645-8103	075-641-0805
京都橘中学高等学校 〒612-8026 京都市伏見区桃山町伊賀50	075-623-0066	075-601-2125
京都西山高等学校 〒617-0002 向日市寺戸町西野辺25	075-934-2480	075-931-4079
京都文教中学高等学校 〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町5	075-771-6155	075-752-6808
京都美山高等学校 〒601-0705 南丹市美山町大字佐々里小字村下6 （通信制連絡先） 〒602-0922 京都市上京区西洞院通り一条下ル讚州寺町237	075-441-3401	075-441-3402
京都明德高等学校 〒610-1111 京都市西京区大枝東長町3-8	075-331-3361	075-331-8088
京都両洋高等学校 〒604-8851 京都市中京区壬生上大竹町13	075-841-2025	075-841-0178

学校住所	Tel	Fax
同志社中学高等学校 〒606-8558 京都市左京区岩倉大鷲町89	075-781-7121	075-781-7124
同志社国際中学高等学校 〒610-0321 京田辺市多々羅都谷60-1	0774-65-8911	0774-65-8990
同志社女子中学高等学校 〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入	075-251-4305	075-251-4308
日星高等学校 〒624-0913 舞鶴市上安久381	0773-75-0452	0773-75-0860
ノートルダム女学院中学高等学校 〒606-8423 京都市左京区鹿ヶ谷桜谷町110	075-771-0570	075-752-1087
花園中学高等学校 〒616-8034 京都市右京区花園木辻北町1	075-463-5221	075-464-9469
東山中学高等学校 〒606-8445 京都市左京区永観堂町51	075-771-9121	075-771-7217
福知山淑徳高等学校 〒620-0936 福知山市正明寺36-10	0773-22-3763	0773-23-5519
福知山成美高等学校 〒620-0876 福知山市水内3471-1	0773-22-6224	0773-24-5416
平安女学院中学高等学校 〒602-5013 京都市下京区下立売通烏丸西入ル五町目172-2	075-414-8111	075-414-8119
南京都高等学校 〒619-0245 相楽郡精華町下狛中垣内48	0774-93-0518	0774-93-2266
洛星中学高等学校 〒603-8342 京都市北区小松原南町33	075-466-0001	075-466-0777
洛南高等学校・洛南高等学校附属中学校 〒601-8478 京都市南区壬生通八条下る東寺町559	075-681-6511	075-671-2317
洛陽総合高等学校 〒604-8453 京都市中京区西ノ京春日町8	075-802-0394	075-822-0472
立命館中学高等学校 〒612-0884 京都市伏見区深草西出山町23	075-645-1051	075-645-1070
立命館宇治中学高等学校 〒611-0031 宇治市広野町八軒屋谷33番1	0774-41-3000	0774-41-3555
龍谷大学付属平安中学高等学校 〒600-8267 京都市下京区大宮通七条上ル御器屋町30	075-361-4231	075-371-1793

5. 京都府私立中学高等学校情報科研究会常任委員会委員および役割

2011（平成23）年度役員表

役職名	氏名	所属・学校名
委員長	野口 正則	龍谷大学附属平安中学・高等学校
副委員長	三宅 進一	立命館宇治中学校・高等学校
常任委員	清田 祥一郎	立命館中学校・高等学校
	鈴木 潤	同志社中学校・高等学校
	山本 昌彦	大谷中・高等学校
	増田 純一	龍谷大学附属平安中学・高等学校
庶務・事務局担当	長谷川 卓也	京都橘中学校・高等学校
会計担当	酒井 知果	華頂女子中学高等学校
監事（会計監査）	瀧内 義弘	東山中学・高等学校
顧問	西之園晴夫	特定非営利活動法人 学習開発研究所

6. 2011年度情報科研究会予算と決算

(1) 事業計画と収支計画 (予算)

	研修会の名称	研修実施 (予定)	開催場所 (予定)	参加予定者 の範囲・人数	研修のテーマ 内容・講師等	事業費 (円)
1	常任委員会	4月	龍谷大平安	6名	総会の準備	1,500
2	通常総会	5月中旬	同志社国際	30名	①規約 ②事業計画 収支計画 ③その他 (各校の授業計画書)	6,000
3	常任委員会	6月	龍谷大平安	9名	夏期研究会の準備	1,500
4	夏期研究会	7月上旬	大谷	30名	テーマ:「未定」 講師:未定	36,000
5	常任委員会	9月	龍谷大平安	9名	秋期研究会の準備	1,500
6	秋期研究会	10月	同志社	20名	私立中高教育研究大会の 分科会として実施 テーマ:「未定」 講師:未定	36,000
7	常任委員会	12月	龍谷大平安	9名	冬期研究会の準備	1,500
8	冬期研究会	1月下旬	龍谷大平安	20名	情報授業公開授業 各学校成果物発表	17,000
9	会誌の発行	3月	龍谷大平安	30部	総会・研究会のまとめ	24,000
10	Webサイトの運用	常時			総会・研究会の案内と報告	15,000
					合計	140,000

(2) 2011年度決算報告

1) 2011年度 情報科研究会 事業完了報告書（京都府私立中学高等学校連合会へ提出）

収入の部

私立中高連合会より（円）
119,200

支出の部

	研修会の名称	研修実施 年月日	開催場所	参加 予定	研修のテーマ 内容・講師等	事業費 (円)
1	通常総会	5/12(木)	同志社国際	20名	コミュニケーションセンター 見学 事業計画・収支計画の確認 常任委員の追加募集 各校の授業概要について情報 交換	2,080
2	夏期研究会	7/4(月)	大谷	36名	テーマ「情報教育における中 高段階での役割」 小中高大の現状報告 小：京都市立紫野小 石原先生 中：京都橘中高 畑先生 高：京都教育大 安東先生	30,000
3	私立中高教育研究大 会の情報科分科会 (秋期研究会)	10/10(月)	同志社	23名	テーマ「プレゼンの意味、よ いプレゼンのために必要なも のを考える」 講師：龍谷大学社会学部 東田先生とゼミ生	30,000
4	冬期研究会	1/31(火)	龍谷大学附属 平安	34名	公開授業：プレゼンテーショ ン発表 テーマ「将来やりたい職業」 増田先生 各学校授業紹介	0
5	情報科研究会冊子	3/31(土)		100部	総会・研究会の案内と報告	57,120
※私情研として予算14万円を要求していたが、連合会第1回委員 長会議において、11万9200円での金額で配分が決定された。					合計	119,200
					差額（収入－支出）	0

2) 情報科研究会 会員費収入

会員費収入
0

※2010年度より会員費の徴収しておりません。

(3) 2011年度 情報科研究会 出納帳

2011年度 私立中高連合会情報科研究会 出納帳

収入の部

連合会：119200円

支出の部

平成23年度		研究会名		情報科研究会			
月	日	件名	費目	伝票番号	収入額	支出額	差引残高
6	30	資料送付代(80円×26校分)	通信費2	1		2,080	117,120
7	4	夏期研究会 講師料(石原先生分)	講師関係費1	2		10,000	107,120
7	4	夏期研究会 講師料(畑先生分)	講師関係費1	2		10,000	97,120
7	4	夏期研究会 講師料(安東先生分)	講師関係費1	2		10,000	87,120
10	10	京都府私立中高教育研究会 情報科分科会 講師謝金	講師関係費1	3		30,000	57,120
3	31	冊子製本代	印刷費4	4		57,120	0
				合計	119,200	119,200	0

(4) 事業実績決算額内訳一覧

2011年度 情報科研究会 事業実績決算額内訳一覧

収入の部

私立中高連合会
119,200

支出の部

	私立中高連合会	備考
1 講師関係費	60,000	夏・秋の研修会講師料
2 会場費		
3 通信費	2,080	夏期研修会案内送付
4 印刷費	57,120	研究会冊子製本代
5 輸送費		
6 実験実習材料費		
7 消耗品費		
8 備品費		
9 交通費		
10 会議費		
11 分担費		
12 雑費		
合計	119,200	

差引	0
----	---

7. 2012年度情報科研究会事業計画（予算）

	研修会の名称	研修実施 (予定)	開催場所 (予定)	参加予定者 の範囲・人数	研修のテーマ 内容・講師等	事業費 (円)
1	常任委員会	4月	京都女子	6名	総会の準備	1,500
2	通常総会	5/11(金)	京都女子	30名	①規約 ②事業計画 収支計画 ③その他 (各校の授業計画書)	6,000
3	常任委員会	6月	京都女子	9名	夏期研究会の準備	1,500
4	夏期研究会	7/13(金)	京都橘	30名	テーマ：「未定」 講師：未定	36,000
5	常任委員会	9月	京都女子	9名	秋期研究会の準備	1,500
6	秋期研究会	10/21(日)	京都聖母学院	20名	私立中高教育研究大会の 分科会として実施 テーマ：「未定」 講師：未定	36,000
7	常任委員会	12月	同志社	9名	冬期研究会の準備	1,500
8	冬期研究会	2/ 1(金)	同志社	20名	情報授業公開授業 各学校成果物発表	17,000
9	会誌の発行	3月末	京都女子	40部	総会・研究会のまとめ	24,000
10	Webサイトの運用	常時			総会・研究会の案内と報告	15,000
					合計	140,000

8. 京都府私立中学高等学校研究会規約

京都府私立中学高等学校情報科研究会 規約

平成21年 4月 1日

第1章 総則

(名称)

第1条 本会の名称は、京都府私立中学高等学校情報科研究会とする。

(事務所)

第2条 本会の事務所の所在地は、常任委員会で決定する。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 本会は、情報科教育の研究ならびに振興を図り、併せて会員相互の親和向上を図ることを目的とする。

(事業)

第4条 本会は前条の目的を達成するために次に掲げる事業を行う。

- (1) 研究会、講演会、発表会などの開催
- (2) 情報科教育の研究のための情報収集
- (3) 成果物の蓄積と発信
- (4) 関係団体との連携、協力
- (5) その他、前条の目的を達するために必要と認められた事業

第3章 会員

(資格)

第5条 本会の入会資格は、京都府の私立中学高等学校が持つ。

(入会)

第6条 本会に入会しようとする学校は、別に定める入会申込書により、委員長に申し込むものとする。

(会費)

第7条 会員は、別に定める細則にしたがい会費を納入しなければならない。

第4章 役員等

(役員等の種別及び定数)

第8条 本会に次の役員を置く。

- (1) 委員長 1名
- (2) 副委員長 1名
- (3) 庶務 1名
- (4) 会計 1名
- (5) 常任委員 若干名
- (6) 監事 1名

2. 本会は顧問を若干名置くことができる。

(選任等)

第9条 役員は、総会で会員校の教職員の中から選出する。

2. 監事は、他の役員等を兼ねることができない。
3. 顧問は、常任委員会が推薦し、総会で承認する。

(職務)

第10条 委員長は、本会を代表し、その業務を統括する。

2. 副委員長は、委員長を補佐し、委員長が欠けたときはその職務を代行する。
3. 庶務は、本会の事務等を行う。
4. 会計は、資産の状況を記録し、総会で報告を行う。
5. 監事は、次の職務を行う。
 - (1) 常任委員会の業務執行の状況を監査すること
 - (2) 本会の財産の状況を監査すること
 - (3) 監査の結果、重大な不正事実を発見した場合は総会等に報告すること

6. 顧問は、本会の活動に対し適宜助言することができる。

(任期等)

第11条 役員の任期は、2年とする。ただし再任を妨げない。

2. 前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場合には、任期末日後の最初の総会が終結するまで、その任期を延長する。

3. 補欠のため、途中就任した役員の任期は、前任者の任期の残存期間とする。

(欠員補充)

第12条 任期途中で役員に欠員が生じた場合は、これを補充することができる。

2. 前項における役員の選出は常任委員会が行う。

(費用の支弁)

第13条 役員には、その職務を執行するために要した費用を支給することができる。

第5章 総会

(種別)

第14条 本会の総会は、通常総会及び臨時総会2種とする。

(構成)

第15条 総会は、会員校の教職員が参加し質問意見を述べるることができる。

2. 会員校は1票の議決権を持つ。

(権能)

第16条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 規約の変更
- (2) 事業計画及び収支予算並びにその変更
- (3) 事業報告及び収支決算
- (4) 役員の選任又は解任
- (5) その他運営に関する重要事項

(開催)

第17条 通常総会は、毎年1回開催する。

2. 臨時総会は、常任委員会が必要と認めたときに開催する。

(招集)

第18条 総会は、委員長が招集する。

2. 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面等により、事前に通知しなければならない。

(議長)

第19条 総会の議長は、その総会において、出席した会員校の教職員の中から選出する。

(議決)

第20条 総会の議事は、出席した会員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(表決権等)

第21条 会員の表決権は、平等なるものとする。

2. やむを得ない理由のため総会に出席できない会員は、書面等をもって表決を委任することができる。

3. 前項の規定により表決した会員は、総会に出席したものと見なす。

(議事録)

第22条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成する。

- (1) 日時及び場所
- (2) 会員総数及び出席者数（書面表決者又は表決委任者がある場合については、その数を付記すること。）
- (3) 審議事項
- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果

第6章 常任委員会

(構成)

第23条 常任委員会は、委員長、副委員長、庶務、会計及び常任委員をもって構成する。

(招集)

第24条 常任委員会は、委員長が招集する。

2. 常任委員会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面等をもって、事前に

通知しなければならない。

(議決)

第 25 条 常任委員会の議事は、常任委員会総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長が決するところによる。

(表決権等)

第 26 条 各常任委員の表決権は、平等なものとする。

2. やむを得ない理由のため出席できない常任委員は、書面等をもって表決を委任することができる。
3. 前項の規定により表決した常任委員については、常任委員会に出席したものと見なす。

第7章 資産及び会計

(資産の構成)

第 27 条 本会の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 会費
- (2) 補助金
- (3) 寄付金品
- (4) 財産から生じる収入
- (5) その他の収入

(資産の管理)

第 28 条 本会の資産は、委員長が管理する。

(会計業務)

第 29 条 会計業務は、会計がその任にあたる。

(事業計画及び予算)

第 30 条 本会の事業計画及びこれに伴う収支予算は、委員長が作成し、総会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第 31 条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、委員長は、常任委員会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に順じ収入支出することができる。

2. 前項の収入支出は、新たに成立した予算に収入支出と見なす。

(予算の追加及び変更)

第 32 条 予算作成後にやむを得ない事由が生じたときは、常任委員会の議決を経て、既定予算の追加又は変更することができる。

(事業報告及び決算)

第 33 条 本会の事業報告書、収支計算書等の決算に関する書類は、毎事業年終了後、速やかに、委員長が作成し、監事の検査を受け、総会の議決を経なければならない。

2. 決算上余剰金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第 34 条 本会の事業年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。

第8章 規約の変更

(規約の変更)

第 35 条 本会が規約の変更しようとするときは、総会に出席した会員の 3 分の 2 以上の議決を経なければならない。

第9章 雑則

(細則)

第 36 条 本規約に施行において必要な細則は、常任委員会の議決を経て、委員長がこれを定める。

(文書等の定義)

第 37 条 本規約における「文書等」は FAX、電子メールを含むものとする。

附則

(施行日)

附則 1. 本規約は、本会の成立の日から施行する。

(設立年度の措置)

附則 2. 設立年度の措置について、別に定める。

京都府立中学高等学校情報科研究会

2011年度活動記録集（第3号）

2012年 3月31日 発行

発行：京都府立中学高等学校連合会情報科研究会（私情研）

<http://www.kyoto-shigaku.info>